

# 景観の象徴種シモツケソウ群落の変異

## ■象徴種シモツケソウ群落の変異（西コース）



上記掲載2枚の写真は、伊吹山頂頂部西コース中間地点のシモツケソウ群落を定点撮影したものである。上は、2003年8月、下は2008年8月に撮影したもので5年間の開きがある。この変異で明らかなのは、象徴種であるシモツケソウ群落がアカソ、ヨモギ、テンニンソウの繁殖勢力によって急速に狭まっている。

### <伊吹山の夏の指標となる植物>

伊吹山頂のシモツケソウ群落は、夏植物の多様性を示す指標といえる。その美しさや魅力によって世間に特定の生育場所の保護をアピールするに役立つ象徴種である。つまり、この種の保全を追求することによって、地域の生物多様性の保全そのものに貢献するところが大きいと考えられる。

## ■ 象徴種シモツケソウ群落の変異（東コース）



▲ 伊吹山頂近くの東コース。上写真は5年前（2003年）。象徴種のシモツケソウ群落は、急速に範囲を狭めている。